



# 西浮通信

令和5年1月31日  
NO. 388  
東京都北区立西浮間小学校  
校長 小島 みつる

## 学校と地域との連携

副校長 富田 暁子

1月の全校朝会では校長先生から1年の始めにあたって、目標を立てるよさやどんな目標を立てたらよいか、夢に向かって努力することの素晴らしさについて話がありました。校内を巡りながら西浮間小学校の子供たちの目標を見たり聞いたりしていると、学習面の目標を挙げる子も多いのですが、それに負けないくらいあいさつや主体性等、内面に関わることを挙げている子も多くいます。この目標が実現できるように頑張るのはもちろん本人ですが、より豊かに、より有機的に到達させるには、周囲の助けが必要となります。この助け方は、子供との関係性から立場によって異なると考えています。

保護者や地域の方々だからこそできる学びの場の一例として、1月28日(土)にPTA主催の「ファミリーフェスティバル」がありました。今年度も「モルック」というボーリングと輪投げを掛け合わせたようなスポーツを行いました。たくさんの子供たちが参加し、校庭全面を使ってモルックに熱中しました。モルックをやるには難しい技術はならず、偶然性が大いに得点に関わるので、初めてやる子も真剣に集中する様子がありました。また、



ルールはシンプルですが、点を取る方法が2通りあるので作戦を立てたり、相手に取らせて点を取らせる等の策も練ったりと、奥の深いスポーツです。ファミリーフェスティバルを行うに当たって、PTAの方々には運営面で大変お世話になりました。多くの方で担っていただいたおかげで、参加した子は皆チームで協力し、応援をして笑顔で楽しんでいました。ご準備いただいた皆様、ありがとうございました。

一方、学校だからこそできる学びは、次のようなことです。まず国語や算数、音楽や図工などで教科の特性に応じた学習をしています。教科の学習により、基礎・基本の定着を図っています。友達と一緒に学習することで考えを深めたり広めたりしています。その他にも、道徳や特別活動で他者を意識し、他者との合意形成や意思決定の機会を得て、さまざまな力を育てます。また、学習以外にもいろいろな場面でたくさんの友達と関わることで、子供たちの健やかな成長につなげ、社会性を身に付けられるようにしています。

更に、学校と保護者が協力して学びを支える取組をしている例もあります。本校では、登下校の見守りは、保護者の皆様に登校班でのご協力をお願いしています。これは、教員の勤務時間が8:15~16:45であること、学校外の勤務には許可が必要となることから現在このようにしています。もちろん、登下校の安心安全を守る責務は学校にもありますので、交通指導員が交通安全の見守りを担っています。このように、それぞれの立場から子供を見守り、学ぶ場を創り、育てているのです。



2月はふれあい月間です。自分の日頃の言動や、他者を思いやった振る舞いを自分がしているか立ち止まって振り返る機会を計画的に作っています。その際、相手が嫌に思う言葉は人によって違うこと、相手が嫌だなど思う言動はしないことを指導しています。相手がどう思うかを考えられれば、いじめにつながる可能性はぐんと減ることでしょう。言葉遣いや他者に対する振る舞いについては、生活経験が基になっていることが多々あります。場や相手に応じた言葉遣いの他に、自分は日常使う言葉であっても、周りの人は気になる言葉もあることに気付けるように繰り返し指導を行っています。学校と家庭が共に西浮間小学校に通う子供たちを見守り、それぞれの立場からできる学びを創っていきましょう、これからも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い致します。